

揮、第3新生丸転覆事故(05年)や北海道南西沖地震(93年)、大韓航空機撃墜事件(83年)での捜索作業、災害支援



式典で

公共施設へのアスベスト(石綿)使用実態について再調査していた釧路市は21日、湖畔小、桜が丘小、山花小中、

旧旭小の4施設の吹き抜け材で国の基準値である0.1%以上の含有が判明したと発表された。室内環境調査で粉じん



これからも人の心に残る音を探し続けていきたいと
松原さん

ピアニスト 松原 俊恵さん(41)
(釧路市)

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

4歳で音楽教室

「音楽は嫌いではなかった

了。卒業に際し学部賞を受賞した。沖縄県立芸術大学非常勤講

師などを経て、釧路出身のピアニスト木下太陽さんと97年に結婚し、来釧した。第33回西日本出身新人紹介演奏会で審査員長賞、第4回園田高弘賞。ピアノコンクールでは準園田高弘賞、98年の釧路新人演

音楽は心で感じるもの

が、気がついたらこの道に入っていた」。4歳で音楽教室のグループレッスン、6歳で個人レッスンを受けるようになった。京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専修卒業、同大学院音楽研究科器楽専攻終

アノリサイタル、同年と06年の2回、夫の木下さんとデュオリサイタルを開催するなど、室内楽や伴奏などでも活躍している。

千歳市で生まれ、すぐに熊本県に移り高校まで過ごし

奏会では奨励教育長賞を受賞した。

99年4月には札幌交響楽団メンバーと室内楽の夕べを開催。同年7月にはオーストリアのブルックナーオーケストラのメンバーと共演。2000年5月には釧路芸術館でピ

一瞬一瞬を大事に演奏

た。「釧路に来て日が暮れるのがたまらなかったが、近ごろやっと慣れた」と笑顔を見せる。「音楽は心で感じるものと思っていますので、頭で考えないで音楽を楽しんでほしい」と願っている。

「生の音」楽しんで

演奏会では、聴きに来てくれた人の心に響く演奏を目指しており、常に一瞬一瞬を大事にして演奏している。「音楽を楽しむ手段が多様化する中、やはり『生の音』に勝るものはないと信じている。これから人の心に残る音を探し続けていきたい」と話している。(黒田文夫)